

## 総評

令和7年度石川県保健環境センターの研究評価においては、事前評価・中間評価・事後評価あわせて5課題について評価を実施した。事前評価では、多くのデータが蓄積されている大気モニタリング結果を、新たなツールを用いて解析・評価する計画であり、委員から寄せられた多様な意見を十分に踏まえて今後の研究を進めていただきたい。中間評価では、特定が困難な自然毒や新たな環境汚染物質を対象とした研究が評価された。いずれの課題も、検査方法および調査手法の確立という、センターの特性を生かした実践的なアプローチが取られている点が評価できる。今後の成果が大いに期待される。事後評価の1件目は、近年注目されている薬剤耐性菌を対象とした研究であり、細菌を専門とする研究者らが下水の分析に取り組んだものである。今後も研究を継続することで、さらなる成果が期待される。また、パレコウイルスAに関する研究では、医療機関と連携しながら困難な調査研究を実施しており、重要な知見が得られるとともに、今後の流行に備えるための有益な成果が得られたと考えられる。いずれの課題も、人々の健康の保護および環境の保全に大きく貢献する成果が得られており、石川県民への広報に加えて、学会発表や国際誌への投稿など、積極的な情報発信を進めていただきたい。

石川県保健環境センター研究評価・外部評価委員会委員長 池本 良子